

鎮魂の剣舞、絆さらに

北上・江釣子 6区住民 峯岸(大船渡)訪れ交流

東日本大震災後の餅テヤサンマのつみれ汁 歓迎した。振る舞いをきっかけに など海の幸を振る舞い 岩協館長と交流会を

北上市江釣子6区自治会(高橋進会長)の住民ら約60人が訪れ、同市の谷地鬼剣舞のメンバーが勇壮な踊りを披露。大船渡市末崎町の旧細浦魚市場では大船渡湾を望み、念仏と鎮魂の舞をささげた。



大船渡湾を望み、鎮魂の舞を披露する谷地鬼剣舞のメンバー

企画した高橋会長は「鎮魂の舞、交流が復興に向け元気に頑張っている人の励みになればいい」と被災地へ思いを寄せた。

釜石市芸術文化協会(岩切潤会長)は11日、市民芸術文化祭で使用したパネル47枚や運搬用台車など約230万円相当の展示備品を市教委に寄贈した。同市鈴子町の市教育センターで贈呈式が行われ、岩切潤会長(左から3人目)から目録を受ける佐藤功市教育長(同4人目)。

~~~~~

われ、岩切会長から目録を受けた佐藤功市教育長は「市民のために大事に使わせていただく」と感謝した。

パネルなど展示備品は市民文化会館で保管していたが、東日本大震災でほとんど流失した。震災後はリース品



### ～被災者からのメッセージ～

清波てんぐんこ



山田町山田の関口地区仮設住宅 自営業 木下 志きよさん(65)

**山田線は欠かせない**

境田町の自宅近くにあった山田線の踏切から警報機の音が消え、通勤通学に急ぐ人の姿も見えなくなった。目的地まで安心して身を任せられる鉄道は生活に欠かせない。来年4月には三陸鉄道が全線開通することから、山田線を復旧させ、鉄道網をつなげる効果は大きい。私たちの財産として道路と共存できるあり方を考えたい。

題字・山下文男さん

釜石市甲子町 鶴住居地区復興まちづくり協議会副会長 大町 元晴さん(68)

**努力したら乗る復旧**

JR山田線の早期復旧を求めるシンポジウムで発表した。少年時代は蒸気機関車の汽笛を時刻代わりに里山で遊び、海水浴客でにぎわっていた鶴住居駅が思い出される。駅を中心に新たなまちづくりが計画されており、鉄路は欠かすことのできない重要な社会基盤。復旧の暁には鉄道を維持するため、乗る努力を一番に考えたい。

